

データを武器とする企業になるには、データ基盤を構築し、データサイエンティストを育成する必要があります。既に多くの企業はこのことに気付いています。が、これらは必要不可欠な手段に過ぎません。

データ時代は、データを武器にできる時代であるとともに、データによってビジネス環境が激変する時代でもあります。この変化の時代を勝ち抜くは、企業は以下のような組織能力を持たなくてはなりません。

1つ目は、不連続に変わることができる力です。人中心で構築してきた業務プロセスの連続線上でデータを生かすだけでは、小手先の改善にとどまります。現状のプロセスを破壊し、データ中心のプロセスへと変

将来の変化を見抜く力

革する必要があります。

また、モノづくり中心の組織形態で顧客体験を目指しても、顧客体験はモノのおまけにとどまります。顧客体験を設計する組織のもとのモノづくりをする組織形態に変わることが重要です。既存ビジネスの延長上での成長を目指すのではなく、ビジネスモデルをデータ時代に勝てるものへ再定義する必要があります。

2つ目は、長期的視点で経営判断する力です。データ時代とは、ビジネスの潮流が大きく変わる時代です。2、3年先の利益最大化だけを考えて経営の舵（かじ）を切れば、その船は、目の先の波に目を奪われて、時代の大きな流れを見失ってしまいます。

データ革命の時代にやる

べきことは、ビジネス環境の将来変化を見越して、その先でも稼げるように布石を打つことです。コストではなく投資という観点でデータ基盤を構築し、足元の利益ではなく長期的な布石としてビジネスモデルや業務プロセスの変革に挑まなければなりません。

3つ目は、事実に基づいて論理的に考えるファクトベース思考の力です。データ収集や分析が容易になっても、「都合のよいデータだけを見る」「説明しやすい結論を選ぶ」といった企業風土では、データは単なるお飾りです。データ収集や分析が容易になるほど、ファクトベースで合理的に意思決定できる企業と、そうでない企業の経営力格差は大きくなります。